浦添（男子）競り勝ち連覇

仲西（女子）も連覇、延長制す

ハンドボール県中学春季

ハンドボールの第50回県中学生春季選手権大会最終日は29日、豊見城市民体育館で男女決勝までを行い、男子は浦添が神森に38―37で競り勝ち、2年連続8度目の優勝を果たした。女子は延長の末、仲西が31―30で浦西を破り、2年連続12度目の栄冠に輝いた。

【男子】

▽準決勝

神森 38―23 仲西

浦添 39―26 沖縄東

▽3位決定戦

沖縄東 31―29 仲西

▽決勝

浦添 38（18―17、20―20）37 神森

【女子】

▽準決勝

浦西 26―24 神森

仲西 棄権 東風平

▽決勝

仲西 31（13―15、13―11、延長2―1、3―3）30 浦西

ハイライト

浦添、残り3秒に決勝点

男子決勝 浦添―神森、後半終了間際に決勝点となるシュートをねじこむ浦添の赤嶺尚太朗＝29日、豊見城市民体育館（ジャン松元撮影）

試合終了まで残り3秒。敵陣でラストパスを受けた浦添の右サイド、赤嶺尚太朗がディフェンスの間から抜け出し、ボールをサイドネットに突き刺した。この日、チーム最多の11得点を挙げ「絶対に自分が決めようと思っていた。優勝できてうれしい」と、苦しみながらつかんだ栄冠を感慨深げにかみしめた。

前半を同点で折り返すと浦添は後半、相手の圧力に負けないよう、サイドからの崩しやポストプレーなどで的を絞らせず、立ち上がりから連続3得点を挙げた。しかし、対する神森も全国覇者らしい怒濤（どとう）の攻撃を見せ、最後まで1点を争う展開となった。

この試合に決着をつけた赤嶺は「積極的にシュートが打てた」ことを勝因に挙げる。苦手の1対1を何度も切り抜け、自信をつけたという。メンタルの弱さが課題だったが、試合前に名嘉伸明監督から「思いっきりいけ」と背中を押してもらったことも奏功し、最後まで攻めの意識を切らさなかった。

厳しい戦いを制し、宮城藍斗主将は「全国王者の神森を相手に良い試合ができた。次は自分たちが日本一になって後に続きたい」と胸を張った。（野添侑麻）

沖縄県
獅子奮迅
浦添中学校ハンドボール部

男子優勝の浦添

女子優勝の仲西

仲西、速攻で得点機

浦西を1点差でかわす

女子決勝 仲西―浦西、前半、ディフェンスを突破してシュートを決める仲西の大城詩

延長までもつれ込んだ女子決勝は、仲西が浦西を1点差でかわし、2年連続で優勝をつかんだ。8得点を挙げ勝利に貢献した主将の大城詩は「逆転で連覇を飾れてほっとした」と笑顔を見せた。

得意の堅守速攻がさえず、相手に連続で得点を許す場面もあった仲西だが「守備に集中しよう」と声をかけ合い、積極的な守備からパスカットし、速攻につないで得点機をつくった。

3月の全国大会では準々決勝で大差で敗れた。エースの大城佑月は「完敗だった」と振り返り、「まずは一つずつ勝って県中学総体を取る。それから全国に再挑戦したい」と悲願の全国ベスト4入りを誓った。（野添侑麻）

無断複製・転載を禁じます